

活躍する防犯設備士として —現場に寄り添い、“運用できる防犯”をつくる—

株式会社テクノポート名古屋 代表取締役
総合防犯設備士／愛知県セルフガード協会会員 清水 康人



私が防犯設備士としての活動を始めてから15年以上が経ちます。現在は株式会社テクノポート名古屋の代表として、防犯カメラの設置・保守を中心に、賃貸物件オーナー、地域自治会、工場など多様なお客様から相談を受けています。総合防犯設備士として最も大切にしているのは、機器の性能よりも「現場に合った運用ができる防犯」を提供することです。

防犯の課題は、建物の構造や人の動き、地域の環境によって大きく変わります。そのため、単に高性能なカメラを導入すれば良いわけではありません。お客様が抱えている本当の困りごとを把握し、どの場所に、どの目的で、どの運用方法で機器を使うのか——。そこまで踏み込んで設計・提案することが、防犯設備士としての価値だと考えています。

■賃貸物件オーナーが抱える“生活環境型の防犯”への対応

私のものには、アパートやマンションを所有するオーナー様から相談をいただく機会があります。侵入盗や器物損壊といった典型的な犯罪だけでなく、

- ・ゴミ出しのマナー
- ・駐車場のトラブル
- ・騒音や共用部での問題

など、生活と密接に関わる課題も増えています。

賃貸物件では「誰が敷地内に入りしているか分からない」という不安が大きな要因です。そこで私が心がけているのは、物件の動線を精査し、最小限の台数で最大の抑止効果を生むポイントに設置することです。費用対効果の高い提案はオーナー様の負担を減らし、入居者の安心にもつながります。

■地域自治会・工場など、多様な現場に合わせた柔軟な防犯設計

地域自治会からの相談は、「犯罪抑止としての環境整備」が中心です。夜間の不審者対策や、公園・通学路の安全確保など、住民の安心に直結する課題が多く、地域の実情を丁寧に把握する必要があります。一方、工場では“監視”的要素が加わることもあります。物流の流れ、構内事故の記録、従業員トラブルの防止など、防犯に加えて“管理・記録”的性質が求められる現場も少なくありません。

こうした現場ごとの違いこそ、防犯設備士の腕の見せ所です。同じ「カメラ設置」であっても、目的・設計・運用体制は全く異なり、その現場に応じた最適解を見つけることが重要です。

■事例:防犯カメラと監視カメラの違いが生む“目的のすれ違い”

地域自治会の相談を受ける中で、特に誤解されやすいのが「防犯カメラ」と「監視カメラ」の違いです。ある自治会から、こんな依頼を受けたことがあります。

「夜、公園に若者が集まっている。その様子を“監視”したいので、防犯カメラを付けたい。」

話を聞くと、自治会の方は「防犯カメラ」という言葉を使っているものの、実際は“監視”が目的でした。

しかし、防犯カメラは本来 犯罪を未然に防ぐための“環境抑止設備”であり、「人を見張るためのもの」ではありません。カメラの存在が不審行為をためらわせ、トラブル発生時に映像が役立つことが価値であり、行動を監視することが主目的ではありません。

一方、監視カメラは工場などで使われる、リアルタイムで人や作業を“監視・管理”するための設備です。目的が大きく異なります。

この違いを理解しないまま設置すると、

- ・プライバシー問題
 - ・住民トラブル
 - ・自治会内の意見対立 運用管理負担の増加
- など、新たなリスクを生む可能性があります。

そのため私は、導入前に必ず次のように説明しています。

「これは監視カメラではなく、防犯カメラです。」

「目的は人を監視することではなく、犯罪を起こさせない環境をつくることです。」

この認識が共有されて初めて、地域にとって適切な運用が可能になります。目的の共有は、防犯設備士として特に重要な役割のひとつだと感じています。

■設置して終わりではない。“保守”こそ防犯の根幹

防犯カメラは、設置した瞬間がゴールではありません。むしろそこからが本番です。

- ・録画が停止していた
- ・夜間に映っていなかった
- ・HDDが故障していた
- ・必要な映像が探せなかった

こうしたトラブルは、設置後の点検や運用フォローがなければ気付けません。

私の会社では、定期点検による稼働確認・故障時の迅速対応を重視しています。お客様が「いざ必要なときに映像が残っている」状態を維持することこそ、防犯設備士の責務だと考えています。

■総合防犯設備士として大切にしている3つの視点

日々の業務で常に意識していることがあります。

1. 現場の本当の困りごとを正しく聞き取ること
2. 費用対効果の高い、無理のない設計を行うこと
3. 導入後の運用までを見据えた提案を行うこと

防犯は“機器の性能”ではなく、“人の行動”と“環境づくり”で成立します。だからこそ、利用者の視点に立った実践的な防犯こそが、地域の安心に最も貢献できると考えています。

■これからの防犯設備士へ

地域の防犯意識が高まる今、防犯設備士に求められる役割はますます広がっています。機器に詳しいだけではなく、現場を理解し、目的を整理し、住民や利用者と対話しながら最適な仕組みをつくる力が求められています。

私自身も総合防犯設備士として、現場に寄り添い、一つひとつの課題に向き合いながら、“安心できる環境づくり”に貢献していきたいと考えています。



碧南高浜防犯協会講習会



碧南市役所防犯セミナー



設楽署まちの防犯診断